

日本国憲法第一条と九条は

日本国の国是（国として決めた政治上の方針）と認識せよ

日本国憲法第一条と第九条は、日本国民の魂にて犯し、犯おかされることなく、己を辞して貫き通し、全世界に普遍せよ。

憲法第九条は日ノ本太陽の神魂しんこんにて、改定を唱えるは、許されるべきもなき罪魂ざいこんに候。
つちのえね

平成二十年 戊子

千四七四 〇〇五六

愛知県大府市明成町二丁目一七五

〇五六二・四四一〇七〇八

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

世界恒久平和を迎える為には

日本国民一人ひとりの

やまとたましい

日本靈魂に憲法第九条を

以つて世界平和に普遍せよ

やまとたましいはっしょう

日本靈魂発祥の地

こうすのみこと たましい

小碓尊の御靈魂

こうすのみこと たましい

今から約二千年の昔に、小碓尊が父景行天皇に、蝦夷征伐を命ぜられて、

「私は熊襲を征伐して帰ったばかりなのに、今度は蝦夷征伐ですか。それほど蝦夷が悪い事をしているのですか。反乱でも起こしたのですか？」とお尋ねすれば、父景行天皇は、「いらざる事は聞かずとも良い。征伐に行けと言われれば征伐に行くが其貴の使命である」と仰せになり、それ以上何もお聞きすることが出来ず、蝦夷征伐の副将軍に任命された、尾張族の幡頭建稻種尊の日神山の館にて、蝦夷征伐の為の荷駄軍船を、尾張の国と三河の国を分ける境川の河口にある南島に集結させる事になり、小碓尊は、わずかな供を連れて日神山の館を出られ、徒歩にて南島に向われたのでありました。

愛の産霊の地・日本靈魂誕生の森

こうすのみこと

小碓尊はその道すがら、南島が見える丘の上に立たれた時に、南島を眺め

その奥につづく衣浦の海を見つめながら、蝦夷が何をしているやら解らず知らず、征伐に行くと言ったのでは、我が正義良心が許されず、この場限りに

えぞせいぼつ

「蝦夷征伐に行くのでは無く、蝦夷に愛の産霊に行くのです。」と天に向かつてお誓いになれば、天津より日ノ本熱田の「大正腑天神」生命生み出し生産

てんかい

の神が、目の前の森の中にある大銀杏の木の上にお姿をお見せになり、「その

靈魂こそ太陽の宗像【正義と良心】であり、その靈魂こそが人類の福祉・

たましい

人間の幸福をもたらす太陽の大御意志・太陽の靈魂である」と仰せに成り、「こ

たましい

の靈魂の持ち主である、小碓尊は今日より日本武尊と名乗るがよい。」と

仰せになり、姿をお隠しになられたので御座居ました。

正義と良心「大正腑天神熱田の生産の神」の祀り

日本武尊は急ぎ、その森の中に入り銀杏の大木の根元に、太陽の正義と良心「大正腑天神熱田の生産の神」をお祀りされたので御座居ました。日本の本國に始めて熱田の生産の神がお祀りされた神霊地でございます。

大府村の誕生

その後、日本武尊がお立ちに成られた跡地を意志塚（石塚）と名付け置かれ、その辺り一円を愛原とお呼びになり、その森の西に続く池を宮池とお呼びされ、その下を流れる小川を意志根川（石根川）と名付け置かれたので御座居ました。

正義と良心の根元、命の元生産の太陽神を「大正腑天神熱田の生産の神」とお祀りされた森を、大腑の森とお呼びになられたことが、何時しか大府の

森と呼ばれるようになり、大府村が誕生したので御座居ました。

この愛原の地、大腑の森のあった場所は、現在の愛知県大府市明成町一丁目一七三番地と一七五番地で御座います。

この土地は昔から神社があり、神が祀られていた地であることは言われていました。日本の国で一番始めに熱田の生命生産出しの生産の神の祀り場とは知る由もなく、昔から尾張の国からは何時の時代にも大人物が出ると言われてきたのは、この生産の産霊の神の聖地があったればこそその事と仰せでございます。この生産の地を宅地として住まいする加古藤市に、平成元年二月二十四日の昭和天皇の大喪の礼の時に、NHKの総合テレビを通して観せられたのが、弥勒再下生の神聖なるお姿でございます。

その神聖なる画面を、私の脳裏靈魂に確かと焼き付け、打ち込ませ、広島市に在住される熊田良雄画伯に説明させになり、熱田の生命生産出しの生産

の神が、熊田良雄画伯に絵描かされたのが、九条不戦「神々との誓い」の神聖画でありました。

きょうついくちよくじ

教育勅語

一八八九年・明治二十二年大日本帝国憲法が發布されましたが、「その憲法は日本国を亡ぼす憲法だから、直ちに水に流す」と大正腑天神太陽の生産の神が、初代伊邪那身命に仰せになり、熊野大斎原を大洪水で流し、翌年明治二十三年教育勅語の原文を、長沢雄楯に降し書かせ、それを明治天皇が教育勅語と発布されたので御座います。その神の意思に従えず、教育勅語を飴とし、明治憲法をムチとして、日本は軍事大国に突っ走り、その結果、日本の国が昭和二十年八月六日広島・九日長崎にと原子爆弾を投下される憂き目に遭い、八月十五日の神佛の祭り日（神呪の施津・施餓鬼供養の最高の日）を、無条件降

伏の日とさせ、しかも終戦記念日とし、日本国は、「軍隊も武器も持たない。

二度と争い戦いは致さぬ」と大正腑天神太陽の生産の神に誓い、全世界に発表したのでです。

大正腑天神太陽の生産の神は、この地球に植物・動物・人間の生き物の中、人間に対し日本靈魂を天降し示しているのに、昨年度は全く神に背いた防衛省問題・医療問題・年金問題・食品問題など、人間が生きていくために一番大事な論理の偽装に明け暮れ、又、日本国の治安が悪化し、犯罪事件が日常化して、治まる気配がない状況に置かれています。このように人間の本道（日本靈魂）が乱れると社会が乱れるのです。政治とは人の道を教えるのが本来であるはずが、現役の政治家は、神の大御意志・日本靈魂がどこにもないのでないでしようか。大正腑天神太陽の生産の神は、日本国民に改めて「愛の産靈の日本靈魂」を取り戻すために、日本靈魂発祥の地を明らかに示されたので御座います。

平成二十年 戌子 元旦

畏

